

## 活 用 技 術

平成 24 年度

## セイヨウナシ褐色斑点病の伝染環と耕種的防除法

[要約] セイヨウナシ褐色斑点病菌は、発病した葉、果実および枝で越冬し、翌春の4月上旬から子のう胞子、4月下旬から分生胞子を飛散させて感染・発病する。収穫後～積雪前までに落葉および果実を除去し、剪定時には発病枝を剪除する。

農業総合研究所園芸研究センター 環境・施設科

連絡先

TEL 0254-27-5555

FAX 0254-27-2659

## [背景・ねらい]

新潟県の西洋ナシ品種「ル レクチエ」においてセイヨウナシ褐色斑点病が発生し、その被害が問題となっている。そこで、本病の伝染環および耕種的防除法を示し、被害低減を図る。

## [成果の内容・特徴]

## 1 セイヨウナシ褐色斑点病の伝染環

- (1) 本病は、葉、枝および果実に発病する。これらの発病組織に病原菌が越冬する。翌春、発病組織上に子のう胞子および分生胞子を形成し、風雨により飛散して葉、果実および枝に感染・発病する。発病した組織で二次感染を繰り返す(図1)。
- (2) 前年の発病葉および病果実からは、子のう胞子は4月上旬～5月下旬、分生胞子は4月下旬～6月下旬に飛散する(図2)。
- (3) 本病は、葉は5月上旬、枝は5月中旬および果実では5月下旬頃に発病が確認される(図1)。

## 2 セイヨウナシ褐色斑点病の耕種的防除

- (1) 落葉(含発病葉)および発病枝を除去すると、翌春の葉の発病が減少する(図3)。
- (2) 収穫後～降雪前までに、果実は園外に持ち出し埋設する。落葉は集めて園内に埋設するか土壌にすき込む。
- (3) 剪定時に可能な限り発病枝を剪除し、剪除した枝は処分する。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 春期の土壌すき込みは、土壌が軟弱化しスピードスプレーヤの作業性が落ちる場合があるので避ける。

[具体的データ]

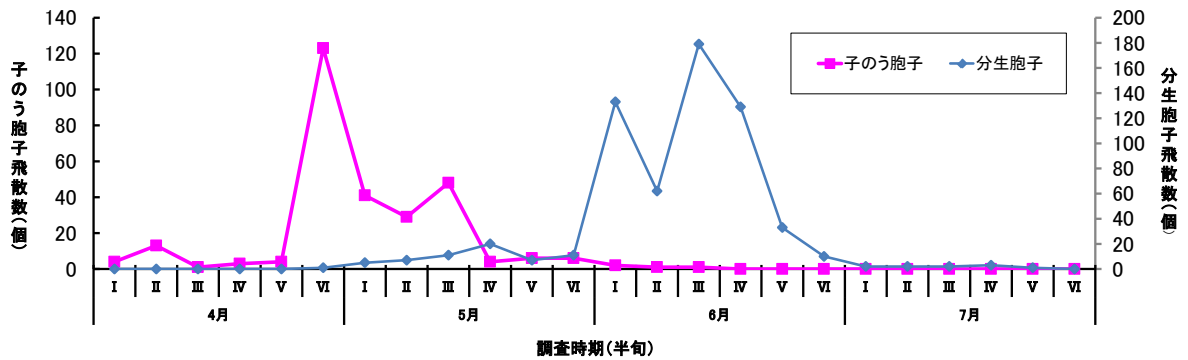


図2 越冬罹病落葉からのセイヨウナシ褐色斑点病菌の子のう胞子と分生胞子の飛散消長(平成23年:聖籠町園研セ)

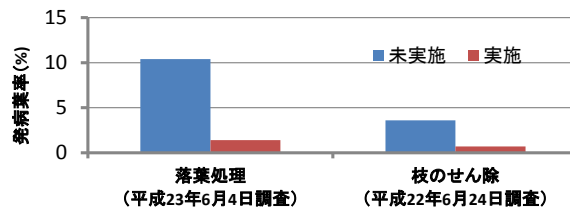


図3 落葉処理および枝病斑のせん除が翌春の葉の発病に及ぼす影響

調査場所:聖籠町園研セ、品種「ル レクチエ」

[その他]

研究課題名: 1) 園芸における総合的な環境負荷軽減技術の開発

2) セイヨウナシ褐色斑点病の防除技術の確立

予算区分: 1) 県単経常、2) 県単特別

研究期間: 1) 平成21~23年度、2) 平成22~24年度

発表論文等: なし